
真夜中のシンカイギョ

みずも

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真夜中のシンカイギョ

【Zコード】

Z7600A

【作者名】

みずも

【あらすじ】

5年生になる男子生徒に必ずやつてくる「真夏の度胸だめし大会」。草太もこの夏にとうとう、参加のキップを手にした。だがここである事件が起こってしまった。度胸試しなんてへでもない事件が、草太たちの目の前で起こったのだ。真夜中の線路に突如すがたを現した蒸気機関車。果たしてその列車の行く先は？目的は？夜空を駆けめぐり少年たちは、なにを見つけ、なにを手にするのだろうか。

プロローグ（前書き）

初ファンタジーに無謀にも挑戦し始めました。また架空の地名・建物・団体名で実際には存在しません、あしからず。

プロローグ

5年生の夏になるともらえる勇者のキップ。

キップを手にした勇気あるものは「度胸試し」の大会に参加するのだ。

町外れのうつそうと茂る雑木林の中を進むと、何百年も前に建立されたお寺が本当に息を呑むくらいにぶきみに現れる。

その寺に眠るご本尊様をたつたひとりで真夜中の2時過ぎに拝むことができたら立派な勇気と称えられ 勇者の称号が『えられるんだ』。

もちろん大人たちには内緒な、子供だけの神聖な儀式だつたりするつてわけ。

それが毎年5年生の夏にやつてくる特大なイベントだつたりする。

いよいよこの夏、とうとうオレも戦いの舞台へと入場が許された。

参加は自由さ、逃げ腰で帰るくらいなら参加しないに限る。

でもつて オレはもう参加しますよ、あつたり前さ。

クラスにいる例のひ弱なガリベン君と一緒にしてもうつたら困る。

さあ、オレは今宵この魔氣を試すために、キップを片手に旅立つんだ。

プロローグ（後書き）

同じく連載中「二つの太陽」と違つて明るくおひやうけで書いていく予定です。

またご意見、ご感想お待ちしています。励みになり馬車馬のように働きます。

また本作品の登場人物紹介などHPで公開中です。お暇であれば目次下の作者紹介ページから遊びに来てください。

「マジでーー?」

上ずつた大声を張り上げてしまったオレは、思わず握つている受話器を落としそうになってしまった。

「ちよっと草太、電話口でなに大声出してるのーー?」

台所から母ちゃんがフライ返しをかかえ、子機で話しているオレの部屋に飛び込んできた。

「なんにもないって、んなことより母ちゃん何べん言えれば分かるんだよー!ノックぐらいしろよな」

「まあ、草太が大声上げるからびっくりして来たんじゃない、あたしが悪いっていつのーー?」

やばい、母ちゃんを怒らせてしまった。まさに鬼の形相だ。右手のフライ返しが鬼の金棒にまで見えてきた。

「こーは素直に謝りう、今夜のこともあるし…。

「ボ、ボクが悪かったです、口答えしてすみません」

「やけに素直じゃない。気持ち悪いわね」

「失礼な、ボクはいつでも素直で純粋なお子さんですよ」

「怪しいわね、なにか隠してるでしょ。なにか変なことでも企んでないでしょうね？」

しまつた逆効果かよー。見事なピッシュチャー返しあげてしまつた。

よけいに訝しげな顔つきになる母ちゃん、「ピンチ、ピンチだオレ!?

その時だつた。神さまの慈愛の手がオレの元に差し伸べられた。

「あれつ、なにか」¹げる匂いがしませんか?」

ふと我に返つた母ちゃんは火にかけられたまま置き去りに去れた、ハンバーグの存在を思いだし嵐のようになり、勢いでオレの部屋から飛び出していくつた。

「あぶねえ、もつすぐで皿洗せられるとこだつた」

汗ばんだ額をひと拭いして、再び子機で話し始めた。

「わりい、話る。もつすぐで柏木団地の鬼に殺されるといひだつた」

「なんだよそれ、鬼つておばさんだろ。だいいち柏木団地つてお前んとこの団地じゃん。地元だしさ、迫力ねえよ」

電話口の悟はオレのクラスメイトで、幼稚園からの付き合いで浴

にこう幼なじみつてわけ。

なもんで、今夜に開催される『度胸試し』の大会に憧れ夢を語り合ってきた同志つてわけ。

「そんなことよりもわざわざの話しに戻つてもよい?」

いかん、いかん。いつも話しがだらだらと脱線していくオレに悟が軌道修正をかけてきた。

「織田も来るらしいんだ、今夜」

「やっぱ本当なんだ。でも信じられねえ……」

その言葉をなんだか聞こづが現実とは思えない。

だつてあの“オダ”だぜ。

頭が良すぎて、決してオレたちとつむることもなく、マンガじやなくて小難しい本ばかり読んでる天才なオダ。

ちょっと顔がいいからつて、芸能人のだれかに似てるからつて女子から壮大な人気なオダ。

なんでのオダが来ちゃうわけ?

一番つまんねえつていいそなオダが、オレたちと一緒に度胸試しじやつわけ?

オレは未だ信じられず、今夜の「度胸試し」がスタートする0時

を向かえるまで氣もそぞろで

夕飯のハンバーグがどんな味だったかしつかり覚えていなかつた。

始発 1 (後書き)

次話をなるべく早めに更新できるよう、一休にムチ打つて頑張ります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7600a/>

真夜中のシンカイギョ

2011年1月9日15時21分発行